



千葉県高等学校PTA連合会

ちば高P連だより

第88号

〒263-0011 千葉県千葉市稲毛区天台町2-8-5
 県総合スポーツセンター宿泊研修所内
 TEL 043(255)0687 FAX 043(255)0681

URL: <http://www.chikoupren.jp/>
 E-mail: chibakoupren@nifty.com



令和四年十一月二十五日(金)、本校は、今年度印旛地区の筆頭理事校として、四街道市文化センター大ホールを会場に、地区研究集会を開催しました。印旛地区内高校十五校から百二十名が参加し、とても有意義な集会となりました。

当日の日程は次のとおりです。

十三時二十分～開会行事
 十三時四十分～PTA活動報告(富里・千葉敬愛・佐倉・佐倉東・佐倉西)

十四時五十分～講演
 講師 NPO法人ユース・サポート・センター「友懇塾」理事長 井内清満氏

演題「かわりから見てくる子どもの未来～大人として……親として～」

十六時三十分 閉会



東葛飾地区

千葉県立四街道北高等学校PTA会長

福井 葉子



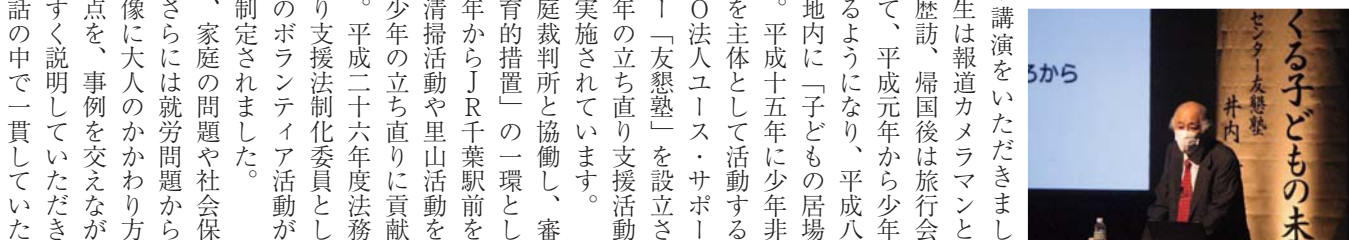
第一部では地区内五校によるPTA活動報告がありました。どの学校も地域に根付いたよい発表でした。PTA活動にスローガンを掲げ、学校と保護者が緊密に連携している学校、SDGsを根幹に様々な活動を行っている学校、ICTの活用によりPTAが参画している学校、学校・保護者・地域が一体となつて歴史や文化の伝統を継承している学校、福祉活動やボランティアを通して、地域とのコミュニケーション活動が盛んな学校等、様々な特色を発表していただきました。どの学校にも共通するのは、コロナ禍でもできることを見いだし、PTA活動が活発に行われている様子が見えたことです。本校にとっても大変参考になる内容がたくさんありました。各高校から持ち寄った広報紙にも興味深い記事が多く見られました。



第二部は井内清満先生による講演会です。「かわりから見えてくる子どもの未来」と題し、約九十分に及ぶ講演をいただきました。井内先生は報道カメラマンとして海外を歴訪、帰国後は旅行会社設立を経て、平成元年から少年問題に関わるようになり、平成八年に自宅敷地内に「子どもの居場所」を建築。平成十五年に少年非行対策問題を主体として活動する団体、NPO法人ユース・サポート・センター「友懇塾」を設立され、非行少年の立ち直り支援活動を積極的に実施されています。

また、家庭裁判所と協働し、審判前の「教育的措置」の一環として平成十六年からJR千葉駅前を中心とした清掃活動や里山活動を実施され、少年の立ち直りに貢献しています。平成二十六年法務省の立ち直り支援法制化委員として、出所前のボランティア活動が法律として制定されました。

講演では、家庭の問題や社会保障の問題、さらには就労問題から見える少年像に大人のかかわり方を見直す視点を、事例を交えながらわかりやすく説明していただきました。お話の中で一貫していた



のは、学校教育と社会教育のスムーズなつながりの必要性でした。井内先生の熱意のこもった講演から、会場にいた誰もが新しい気づきを得たことと思います。



安房地区

千葉県立安房高等学校PTA会長
戸倉隆行



安房高校では、年二回の校外巡回指導を行っています。夏季交通安全指導と冬季巡回指導になります。

毎年夏休み明けの授業が再開する八月二十九日～九月三日までの一週間のうち、地区ごとに一日を選び、生徒たちの通学指導（交通安全指導）を行うのが夏季交通安全指導です。

安房高校では、通学区域の各中学校学区からそれぞれ数名（館山市は各小学校学区ごと）のPTA地区委員が選出されています。

夏季交通安全指導は、各地区（全十八地区）のPTA地区委員を中心に行われ、今

年度は十八地区中十六地区で実施されました。

朝の通学時間帯にあわせて駅前や主要交差点等実際に立って、安房高生の朝の通学の様子を指導していただきました。

「気持ちよく挨拶をしてくれる生徒が多かった」「一時停止を守るなど、ほとんどの生徒たちが自転車の安全運転に心掛けていた」「電車の時間に余裕をもって駅に来る生徒が多かった」といった報告が寄せられた反面、「交差点での目視確認のみで一時的停止をしない生徒も見受けられた」などの報告もありました。

校外巡回指導の期間に限らず、日頃から声かけをするなど、交通安全指導や生活指導に取り組んでいきたいと思っています。

船橋地区

千葉県立船橋古和釜高等学校保護者会
会長 鎌 滝 淳



本校における列車内指導は、昨年の十二月二十三日の午前に実施しました。当日は終業式だったので、生徒の皆さんは午前中に放課になり、早めの下校となりました。本校の最寄り駅は、新京成線と東葉高速線の北習志野駅です。電車を利用する生徒さんは、学校（古和釜高校前バス停）から新京成バスに乗り、北習志野駅まで行きます。所要時間は、二十分くらいです。多くの生徒さんが新津田沼方面へ向かうということ

で、列車内指導は新京成線の北習志野駅から新津田沼駅までの区間を行っています。生徒さんが駅へやってくると一緒に乗車して見守りをしています。その日の保護者の

人数にもよりますが、乗車場所を分散させて、先頭車両から中央、後方とペアで配置して、その他巡回するペアも分担します。近年はコロナ禍によりマスクの着用や会話を控えるなどの乗車マナーが求められています。日常的には不謹慎な大人の行動に不安を感じることもあります。本校の生徒さんは、乗車マナーをしっかり守っていました。他校の生徒さんも乗車していましたが、会話などほしないうで静かに座っていました。思いのほか高校生のほうがマナーを守っているものだと感心させられました。うちの娘もちゃんとマナーが守れているのかな、と頭をよぎりますが、これも日ごろの学校での先生方の指導のたまものではないでしょうか。

以上報告とさせていただきます。ありがとうございました。

令和6年度は高P連YEAR!

平成二十四年度「第58回関東地区PTA連合会大会千葉大会」から十二年、平成二十八年度「第66回全国高等学校PTA連合会千葉大会」から七年が経ち、元号も平成から令和に変わった令和六年七月に千葉県では八回目となる「第70回関東地区PTA連合会大会千葉大会」が開催されます。

令和五年度に準備委員会を立ち上げ、開催に向けての活動が始まります。

【過去の千葉大会】

第17回大会	昭和46年7月	鴨川グランドホテル
第24回大会	昭和53年7月	千葉県文化会館他
第31回大会	昭和60年6月	総合運動場体育館他
第38回大会	平成4年7月	鴨川市文化体育館他
第45回大会	平成11年7月	鴨川市文化体育館他
第52回大会	平成18年7月	千葉ポートアリーナ他
第58回大会	平成24年7月	千葉ポートアリーナ他



第58回千葉大会の様子

十六年六月十一日に千葉県高等学校PTA連合会に変更し現在に至ります。

【過去の記念式典】

10周年	不明	不明
20周年	昭和60年7月13日	千葉ステーション会館
30周年	平成7年3月14日	ロイヤルプラザホテル
40周年	平成16年11月17日	千葉県教育会館
50周年	平成26年11月12日	T K P ガーデンシティ千葉



50周年記念式典の様子

ロゴマークについて

平成4年5月7日決定



1. 千葉県県花「なの花」を中心にデザイン
2. PとTのコミュニケーションにより子どもの幸を念願する。
3. 円形は円滑な運営、融和と平和を表現する。

デザイン イデア工房山田氏

関東地区大会と六十周年記念式典と盛りだくさんの一年になりますが、各校PTA会員の皆様にはご支援ご協力をお願いいたします。

進捗状況につきましては、ホームページ大概要欄にて随時更新いたしますのでご覧ください。

十一月には、「第60回千葉県高等学校PTA研究集会」六十周年記念式典が開催されます。

昭和四十年十月二十九日に千葉県高等学校PTA連絡協議会として発足し、昭和五



鼓組に捧げた夏

千葉県立八千代高等学校 川 又 華 乃



「やるなら数人がやるツッパレ」。この言葉を講きてしまう師の方からい、私たちが、私はこの言葉があったから、全国大会への覚悟が、精神的な面で乗り越えなければならぬ大きな壁となっていました。短時間で集中的に練習をする、全体で長くやるのではなくパートに分かれるというように練習の仕方を一つ一つ工夫し少しずつ乗り越え、全体の熱量がそろった演奏を創りあげることができました。



年生の夏を全て「獅子」勝田の獅子舞に捧げて良かったと心の底から思います。私がこの夏で得られたことは数え切れない程ありますが、感謝の気持ち、熱量、諦めない、この三つの大切さを特に実感しました。

「感謝」。これは部活動でなくても、どんな場面でも大切なことだと思います。小さなことでも「ありがとう」が伝えられると、場の雰囲気が一気に変わったり、笑顔が増えたりします。親しき仲にも礼儀ありと言うように、どんな時でも感謝の気持ちを伝えられる人になりたい、そのような部活動でありたいと思いました。

「熱量」。これは放課後や夏休みの練習でその大切さに気づくことができました。皆が同じくらいの熱量を持った状態で練習するのは難しく、



最後は「諦めない」ことの大切さは、新しい構成という歴代の先輩のやったことがないことを最後までツッパったからこそ気づくことができました。私たちのしたやりたいことをツッパるといえるのは、他の人から見れば正解ではなかったかも知れませんが、大きな舞台で拍手をいただいた時、私はこの選択をして良かったと感じました。



高校生の声



努力の先の光

千葉県立小見川高等学校カヌー部 高岡 明 音



私たち小見川高校カヌー部は、部員数五人とても少ないですが、全国大会出場常連校であり、世界大会にも出場するなど少数精鋭で活躍しています。

私はとても貴重な経験で、一生忘れられません。八月のインターハイでは、決勝で勝つことができませんでした。結果になりました。この悔しさから十月の国体に向けて気持ちを切り替えて練習に励みました。そして十月の国体は、ペアで出場をした500mで第二位と過去最高の成績を取ることが出来ました。優勝に届かず悔しい気持ちもありましたが、とても嬉しかったです。

昨年まではコロナ禍により、ほとんどの大会が延期・中止になり練習してきた成果を発揮することができませんでした。コーチたちから言われ続けてきた「練習で出来ないことを本番で出来るわけない。だから練習中に何度も挑戦して失敗して上になっていく」。この言葉を常に考え、仲間たちとそれぞれの目標を達成できるようお互いに刺激し合いながら日々練習してきました。

今年は無事に大会が開催され、三月に開催された海外派遣選考会では、女子二名がアジアパシフィック大会日本代表選手に選ばれました。初めて競い合った海外選手とのレー



後援事業報告①

第16回

高校生理科研究発表会

「三年ぶりの対面開催」

千葉大学高大接続センター

特任教授 足立 欣一



第十六回
高校生理科
研究発表会
が千葉県教
育委員会共
催、千葉県
高等学校P
TA連合
会、千葉県
高等学校長
協会等々の後援・協賛の下、九月
二十四日に三年ぶりに対面方式で
開催されました。

県内、県外各地から多くの高校
生や審査員の先生方に千葉県西
千葉キャンパスに足を運んでい
たきました。

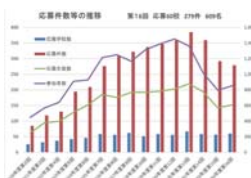
残念ながら新型コロナウイルス
感染症拡大防止のため、今年度も
通常の体育館におけるポスター
セッションでの発表ではなく、工
学部各教室に物
理・化学・生物・
地学・数学・情
報の各分野に分
かれてプレゼン
テーション形式
での実施となり



ました。

プレゼンテーションでは、知
識・技能の技を競うとともに、I
CT技術を駆使してチャットやオ
ンライン会議システムを活用した
質疑応答も併用しました。体育館
でのポスターセッションとは違っ
た研究発表で新たな発見ができた
ことと思います。

今回は、全国から六十校、二七
九件、六二三名の応募をいただき
ました。



応募件数等の推移

様々な困難の中でも、熱意を
もって課題研究に取り組んできた
高校生の努力の成果に接すること
ができたこと、ご指導いただいた
先生方の情熱に審査員・実行委員
も感動したところであります。

千葉県高等学校PTA連合会から
は、英語の発表による最優秀賞に
対し「会長賞」の贈呈をいただい
きました。

後援事業報告②

第26回

英語・日本語弁論大会

今年度は、東京都の武蔵高等学
校中学校の生徒が「数学・情報」
分野で発表タイトル「顔認識AI
は、私の感情を正確に識別できる
のか？」で受賞しました。

コロナ感染状況が収束し通常開
催が可能となった際には、多くの
会員の皆様にも会場に足を運んで
いただき、高校生の熱気あふれる
姿をご覧いただければ幸いです。

今後ともご支援・ご協力をよろ
しくお願いいたします。

令和五年一月二十六日に成田国
際高校にて、国際教育研究部会主
催の第二十六回日本語・英語弁論
大会を開催いたしました。新型コ
ロナウイルスの影響により、令和
元年度大会以降会場での開催は中
止となっておりましたが、今回三
年ぶりに対面形式で実施すること
ができました。県内十三校より二
十八名の参加がありました。

各部門の入賞者は、以下の通り
です。

第一部門 英語による弁論

一位 大畑 心晴 (千葉英和高校)

二位 王 晶 (翔凜高校)

「You Are You」

「Building A Bridge to

True Understanding」

三位 齊藤 琴音 (長生高校)

「Man-made Miracle」

第二部門 留学生による弁論

一位 関 越童 (翔凜高校)

「私が感じた日本語の心」

二位 寺内 アンヘル サクヤ (幕張総合高校)

「本当の豊かさとは」

三位 施 静蕊 (市立柏高校)

「努力する、信じる」

第三部門 日本語による弁論

一位 坂口 心優 (専修大学松戸高校)

「難民を課題にしない世界へ」

二位 菊地 恋羽 (翔凜高校)

「サッカーを通して伝えたい思い」

三位 生井澤龍青 (敬愛学園高校)

「民主主義の成れの果ては銃声」

なお、この大会の各部門は、関

東甲信越静地区大会を経て全国大
会へと通じるもので、ただし、第
三部門のみ全国大会が開催されて
いないため、関東甲信越静地区大
会まで、例年各部門の表彰者の
うち、全国大会出場資格を満たす
者を千葉県代表として関東甲信越
静地区大会に推薦しております。

また、昨年度の弁論大会を勝ち抜
いた五名の、関東甲信越静地区大
会での成績についても、ご報告い
たします。

英語発表部門

第三位 村松 梨奈 (敬愛学園高校)

日本語発表部門

最優秀賞 カスバディリコ コロウィ エリン

優秀賞 鄭 綵妍 (翔凜高校)

「市立柏高校」

国際理解研究発表会

最優秀賞 朴 志婉 (東葛飾高校)

優秀賞 鈴木 華祈 (東金高校)

このうち、英語発表部門と日本
語発表部門あわせて三名の入賞者
が、八月に対面+ZOOMのハイブ
リッド形式で行われた第五十九回
全国国際教育研究大会関東合同大
会へ関東甲信越静地区代表として
出場し、エリンさんが最優秀賞に
相当する「文部科学大臣賞」を、
鄭さんが「国際交流基金理事長賞」
を、村松さんが「全国国際教育研
究協議会長賞」を受賞するなど、
大変優秀な成績を収めました。こ
れにより、留学生による日本語発
表部門においては、五大会連続の
全国大会出場となりました。

今後とも弁論大会参加生徒への
応援をよろしく願います。



特色ある
生徒の
活動力

ボランティア団体

『HIMAWARI』について

千葉県立国分高等学校 顧問 濱田 文

千葉県立国分高等学校では、

二〇二二年四月にボランティア団体



生徒が作製したステッカー

『HIMAWARI』を生徒達が立ち上げ、戦火に苦しむウクライナの人々やロシアを含め反戦を訴える人々を支援してきました。五月にはウクライナのインフラ整備、人道支援、住宅再建などを目的とした募金活動を校内で行いました。『HIMAWARI』のメンバーで募金を呼び掛けるポスターを作成しユネスコ委員会と協力して募金を呼びかけたところ二日間で約二万円のお金が集まりました。寄付金は全て市川市国際交流協会を通じてウクライナ大使館へ送られました。

高校生の立場で「反戦」を訴えたい。もっとも弱い立場にいる人々に支援を届けたい。

このような考えをメンバーで共有し、学校全体に支援の輪を広げてくださいました。文化祭では、募金してくださった方々にステッカーをお配りしたり、文化祭を盛り上げるグッズとしてペンライトを販売したりして、約六万円のお金を集めました。募金先について、メンバーで議論を重ねウクライナ大使館、日本ユニセフなど複数の候補から「公益社団法人Save the Children」を選びました。「寄付金」が本当に困っている子供達のもとに届けられるか「戦争継続（武器の購入など）のために使われないか」「反戦に役立てられるか」などの観点から『Save the Children』が募金先としてふさわしいと考えました。『Save the Children』の職員

『HIMAWARI』は、その後も定期的に集まりウクライナの状態について情報交換するなど、活動を継続してきました。その成果を『ウクライナの歴史』、『ウクライナの世界遺産』、『ウクライナの食文化』、『ウクライナのために「私たちができること」』『ウクライナ写真館』という掲示物にまとめました。また、文化祭での募金活動やペンライト販売（売上金を募金）などを企画し準備しました。



募金を呼び掛けるポスター



文化祭の様子
販売したペンライトで文化祭を盛り上げました。



文化祭の様子
募金のブースには沢山の人が来てくれました。



生徒たちが作った掲示と募金場

マングローブの森づくり。
それは、豊かな地球を
未来に届けること。

マングローブ価値共創100年宣言

東京海上日動

www.tokiomarine-nichido.co.jp

AIG

AIG 損保

MS&AD 三井住友海上

安心のゴールキーパーでありたい。

GK

クルマの保険

すまいの保険

ケガの保険

損保ジャパン
SOMPO Innovation for Wellbeing

Innovation for Wellbeing

すべての人々の幸せと、より良い社会のために。
私たちは、笑顔と活力あふれる「確かな明日」へ、イノベーションを起こし続けます。

損害保険ジャパン株式会社

千葉支店 千葉中央支社
〒260-8505
千葉県千葉市中央区千葉港8-4
https://www.sompo-japan.co.jp/

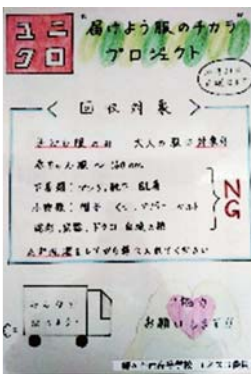


「服のチカラプロジェクト」

千葉県立鎌ヶ谷西高等学校 ユネスコ事務局

本校では毎年SDGsへの理解を深めるボランティアを行っています。本年度は、「服のチカラプロジェクト」(◎関連する分野:「持続可能な生産と消費」「貧困」「環境」「国際理解」というボランティアを中心に活動を行いました。活動の様子を紹介します。

分けて古服の回収を呼び掛けるポスターを何枚か作成してもらい、作成したポスターは校内に掲示をしたり、協力していただく施設に掲示をしたり、ネット上での呼びかけに画像として使用して頂いたりしました。



②回収BOXを設置:古服の回収は校内だけでなく校外でも行い、複数の施設に回収のご協力をさせて頂きました。数名の生徒とともに施設へ伺い、ボランティアの手順の説明と、古服を回収するBOXの設置を行いました。



講演を終えてボランティアの募集をかけたところ、全校で一三二名の生徒がボランティアへの参加を希望してくれました。参加する生徒も昨年度までよりもかなり多かったので、ボランティアの活動内容を分けて分担しました。

③校内で放送でのボランティアの告知:校内での古服の回収は、お昼の時間の放送にて告知をしました。

④回収BOXを回収:設置をした施設へBOXの回収に伺いました。



⑤発送作業:校内や校外で回収した古服を発送する作業を行いました。発送できる服とできない服を分け、サイズや服の種類ごとに分類し、畳んで段ボールに詰めます。段ボールは一度ファーストリテイリングへ送り、その後世界中の難民の子どもたちへ届けられます。

本年後は昨年以上に多くの生徒が参加し、ボランティアに対する興味や関心も広まったように思えます。また、参加した生徒たちからは、「自分も普段から何かできることはないかと考えるきっかけになった」、「普段関わることで知らない人たち(地域の人たちや他学年の先輩や後輩)と関わることでできて良かった」、「ボランティアに興味が出てきたので他のボランティアにも参加してみようと思う」などの声が上がりました。



設置にご協力頂いた施設や学校の方々、寄付にご協力頂いた地域の方々、ボランティアに協力してくれた生徒の皆さん、ありがとうございました。

本年度で協力頂いた施設や学校(五十音順)

鎌ヶ谷市北部公民館、鎌ヶ谷市役所、鎌ヶ谷市立西部小学校、鎌ヶ谷市立第三中学校、松戸市立六実第二小学校

令和五年度 主な行事予定

- ・県高P連総会 6月7日(水)
- ・千葉県教育会館大ホール
- ・関東地区高P連総会 6月16日(金) 栃木県
- ・全国高P連大会定時総会 6月24日(土)
- ・TKPガーデンシティ
- ・PREMIUM秋葉原他
- ・第69回関東地区高P連大会栃木大会 7月7日(金) 8日(土)
- ・マロニエプラザ
- ・第72回全国高P連大会宮城大会 8月24日(木) 25日(金)
- ・全国高P連会長事務局長連絡会 9月30日(土)
- ・新大阪ブリックビル他
- ・関東地区高P連第一回役員委員会 10月12日(木) 千葉県
- ・第58回県高等学校PTA研究集会 11月15日(水)
- ・千葉県教育会館大ホール
- ・全国高P連会長事務局長研修会 2月3日(土)
- ・東京ガーデンパレス
- ・関東地区高P連第二回役員委員会 2月9日(金) 千葉県

【お詫言】

本誌の記述については全て原文のまま掲載させていただきました。

この度、「ちば高P連だより」(第88号)の発行が遅れましたこと心よりお詫言申し上げます。